

第2回国連軍縮札幌会議閉会発言  
(2004年7月29日)

国連アジア太平洋平和軍縮センター所長  
石栗 勉

札幌会議も終わりを迎えました。

まず初めに、情報に富み、時には私たちの思考を刺激するような発表を行ってくれた参加者の皆さんに感謝したいと思います。それはこの3日間に及ぶ討論の基礎となりました。同時に、他の参加者の皆さんにも感謝したいと思います。議場から積極的に討論に参加し、有益な発言をして下さいました。そのおかげで活発な討論を続けることができました。

また、特に4人の報告者に感謝の意を表したいと思います。この3日間に行われた発表や討論を均衡がとれ、かつ客観的に要約してくれました。素晴らしい要約だと思います。これらの要約は公式の記録というわけではありませんが、国際的に、またアジア太平洋地域において、軍縮と不拡散の問題に取り組む人々に新しい示唆を与えるものと確信しています。

札幌会議では今日の世界が直面する緊急な安全保障の問題を取り上げました。核不拡散に対する重大な挑戦と国際社会の対応を主要テーマとして、核テロリズムの危険性、核の闇市場、安全保障理事会の役割、PSI(大量破壊兵器拡散防止構想)を含む不拡散に関する提案、それに安保理決議1540などが討論されました。

2005年核不拡散条約(NPT)再検討会議に関しては、札幌会議は特に再検討会議が直面する課題や展望、NPT体制の強化、追加議定書への参加、核燃料サイクル、条約再検討メカニズム、条約脱退、消極的安全保障などの問題を取り上げました。

見解の相違はあるものの、会議では共通の理解が得られたと思います。すなわち国際の平和と安全を促進するには、NPTと不拡散体制を全面的かつ効果的に実施することが不可欠であることです。従って、NPTのあらゆる条項を実施し、NPT加盟国の原子力平和利用を阻害することなく、核兵器の拡散を防ぐためにはいかなる努力も惜しんではなりません。

また、会議は、国際連合の基本的な問題、すなわち安全保障上の重大な脅威に対して、国連が適切に対応する能力を備えているかどうか検討しました。ある発言者は、国連が

新しい挑戦に応えることができなかつたことが、時には既存の国際秩序を軽視する思慮のない国々を生み出したと述べました。事務総長はこうした状況に鑑み、2003年11月に「脅威、挑戦、変化に関するハイレベル・パネル」を設置しました。ハイレベル・パネルは、グローバルな脅威を検討するとともに、国際の平和と安全に対する将来の挑戦を分析し、こうした挑戦に対して、集団的にどのような措置をとりうるかを明らかにすることになっています。また、こうした集団的行為を可能にするために、国連はどのように変わるべきかについて勧告することになっています。そのために、そればかりではないのですが、国連の主要機関の見直しを行うことになっています。

ハイレベル・パネルの研究は、国連に対する信頼を回復し、かつ多国間主義の価値を再確認するための考え方を提示するものと期待されています。

また、札幌会議では、朝鮮半島非核化の問題を中心に、北東アジアの安全保障の問題が取り上げられ、6カ国協議や国際的な拡散規範の構築について活発な議論が展開されました。会議で認められたことは、6カ国協議は朝鮮民主主義人民共和国（DPRK）を国家としての義務と特権をもった普通の主権国家として、国際社会に適応させるべきだということです。また、DPRKの経済改革と核兵器問題平和解決の間の複雑な関係について、興味深い報告が行われました。

札幌会議は、軍縮と不拡散は忍耐を要する長期にわたる努力を必要とする問題であると認識しました。したがって、若い世代を中心とした軍縮教育が肝要です。札幌会議の一部として、軍縮教育セミナーが開催されました。セミナーは、学校の先生方と軍縮・不拡散問題専門家との間で、教育についての考え方やそれぞれの経験について意見交換する有益な機会を提供しました。会議で再確認されたことは、軍縮と不拡散に関する教育の目的は個々の人々に知識と技能を与え、彼らが具体的な軍縮と不拡散措置の実現に貢献し、ひいては私たちの究極の目標である効果的な国際管理下における、全面完全軍縮を実現することです。

私の個人的な見解ですが、札幌会議はアジア・太平洋地域の内外で軍縮と不拡散を促進する活動に大きく貢献することができました。今度の会議で私が受けた印象は次のように要約することができますと思います。言うまでもないことですが、この要約は私自身の見解であり、皆さんの立場になんら影響を与えるものではありません。

札幌市も含む北海道の市民が平和と核兵器のない世界を強く願い、その実現に努めていることに感銘を受けました。

札幌会議の主要な目標は核不拡散に対する挑戦、北東アジアの安全保障、急速に変化

する世界と国際機関の適応を討議することであり、それが十分に達成されました。

ほとんどの参加者は、

1 . 地域および国際の安全に対してこれまで想定されなかったような脅威が発生し、その対応に多国間主義に基づく国家間の協力が不可欠であることに留意した。

2 . 条約違反や非遵守に見られる NPT に対する明らかな挑戦、核の闇市場、非国家主体による大量破壊兵器用物質及び技術の取得の可能性に懸念を表明した。これらの挑戦に対応する具体的な提案が札幌会議で行われたことに留意した。

3 . 1995 年および 2000 年の再検討会議において達成された具体的成果も含め、過去 29 年間にわたる条約の実施経緯を想起した。

4 . 札幌会議の開催は時宜を得たものであり、様々な背景を持った参加者に核不拡散体制に対する重大な挑戦と国際社会の対応について、自由に意見交換する特別の場を提供した。

5 . 核不拡散条約 (NPT) は、地域およびグローバルな安全保障並びに核兵器拡散防止にとって不可欠であることを再確認した。

6 . 安全保障理事会を含む国際連合、国際原子力機関 (IAEA) 、その他の機関が不拡散問題の解決に重要な役割を果たすことを再確認した。

7 . すべての締約国は、2005 年再検討会議において、確固とした政治的意思と柔軟性を発揮し、NPT を支持強化し、新たな挑戦に対処できるように合意するよう奨励した。

8 . 世界の国々および非政府組織 (NGO) は、札幌会議の成果を考慮に入れて軍縮および不拡散に関する活動を進めるよう要請した。

9 . 国連軍宿局およびそのアジア太平洋平和軍縮センターが「軍縮・不拡散教育」を推進していることを称賛した。

10 . すべての参加者に対し、札幌会議の成果をそれぞれのチャンネルやネットワークを通して幅広く周知徹底させるよう要請した。

これは「札幌メッセージ」と呼べましょう。

札幌会議は今日の世界が直面する平和と安全保障、軍縮への挑戦の問題を取り上げ、成功裡に終えることができました。私たちの討論が複雑な核軍縮と不拡散の問題を理解させるための一助となり、また公式の場での対話の促進に役立つよう信じています。

主催者および参加者を代表して、札幌会議の開催を含む、国連アジア太平洋平和軍縮センターの活動に対し、長年にわたり力強い政治的、財政的支援をおこなってきた日本政府に感謝の意を表したいと思います。

また、この会議の開催に際し、北海道、札幌市よりいただいた、多大の財政支援を始めとする様々なご支援に対しても感謝したいと思います。このことは、札幌市を含む、北海道の市民の皆さんが軍縮と不拡散の問題に大いに関心を持ち、それにふさわしい貢献を行いたいとの熱意の表れであると信じます。会議の開催中には国連軍縮札幌会議実行委員会主催のもとに、国連ジュニアワークショップ（7月28日）、戦争・原爆被災展（7月26日 29日）、国連切手パネル展（7月25日 29日）、「平和の旗」展（7月26日 8月25日）など、さまざまな行事が行われました。こうした行事は軍縮会議での討論をさらに興味深いものにしてくれました。

日本政府、北海道、札幌市、社団法人北方圏センター、財団法人札幌国際プラザ、それにルネッサンス・サッポロ・ホテルの援助なしにはこの会議を成功させることができませんでした。それぞれのスタッフがこの会議のために提供してくれた素晴らしい支援に対して心からお礼を申し上げます。

同様にインターグループの通訳の皆さんにも心からの感謝を申し上げます。通訳者の的確かつ素晴らしい通訳がなければ会議をこのように成功させることはできなかつたでしょう。また、会議の開催中、百人余りの高校生やボランティアの皆さんが、私たちの会議を手伝ってくれました。彼らに対してもお礼を申し上げます。この会議のお手伝いを通して得られた知識や経験が、国際問題の学習において貴重な財産となるものと信じています。

最後に、参加者の皆さん、無事に帰途に着かれませうようお祈りいたします。また、近い将来お会いしましょう。

これをもって第2回国連軍縮札幌会議の閉会を宣言します。